

# やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信

(題字 伊藤武夫氏)

## 文殊寺の幻の算額

去る四月

二十三日、

美里町や、

ときがわ町

の和算家の

足跡を訪ね

た際、熊谷

市野原の文

殊寺にも立

ち寄りまし

た。

武州野原

の文殊寺は、

丹後の切

戸・米沢の

亀岡と並んで日本三体文殊として有名という

ことですが私は知りませんでした。

大変歴史のある寺院ですが、そのことはさ

ておいて、この寺にはかつて算額が懸かって



熊谷市野原の文殊寺

第9号 平成二十六年(二〇一四)六月三日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

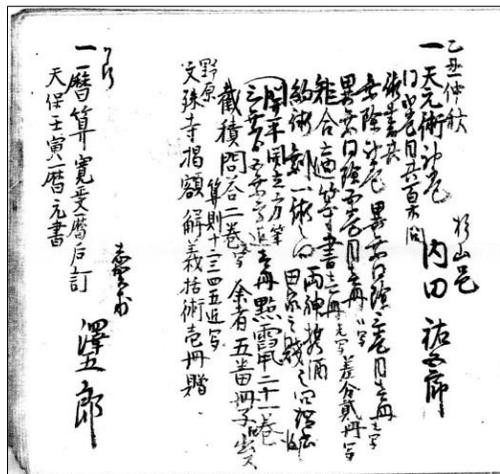
山口正義

いたと言います。但し、昭和十一年八月の本堂や伽藍の火災で算額は全て消滅してしまつたということです。

文献(1)によれば、嵐山町の内田祐五郎は明治十一年以前(いつか不明)に文殊寺に奉額しています。また内田の一番弟子で滑川町水房の吉野米三郎は明治八年二十三歳のときに奉額しています。内田と吉野の奉額した算額が同じものかどうかは不明とあります。

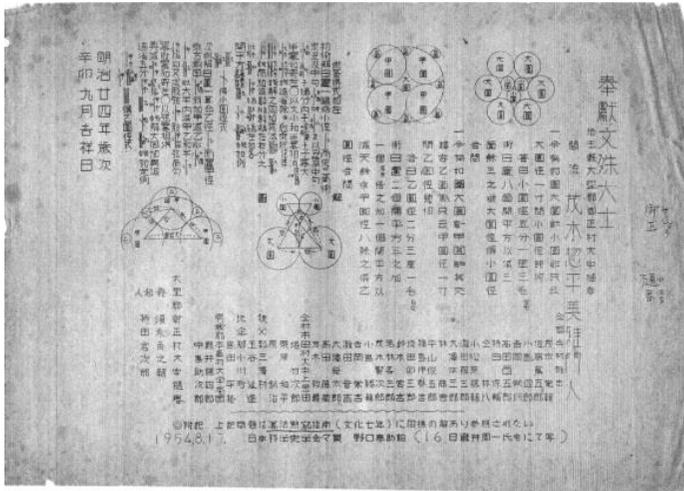
ところで、野口泰助先生から頂いた戸根木格齋の「入門性名録」(複写)には、「乙丑(慶應元年)仲秋杉山邑内田祐五郎」の個所に、「野原文殊寺掲額解義括術壹冊贈」とあります。これは前述の算額とは別の算額について格齋が解説したものを祐五郎に贈つたということかも知れません。

野口先生からは他に、明治二十四年に茂木惣平美雅の門人が文殊寺に奉納した算額の控(複写)を頂いています。この算額の問題は『埼玉の算額』に載っていますが、門人名は略されています。頂いた資料には門人三十名



と発起人二名が記載されています。この資料は先生が昭和二十九年八月十六日に鯨井周一氏宅にて写すとあります。また、問題は『算法点竄指南』(文化七年・大原利明)に同様の解あり、とあります。確かに調べてみると全く同じ問題が『算法点竄指南』にありました。ということはどういうことなのでしょう。茂木惣平の門人たちは、『算法点竄指南』の問題を写して掲額したということになります。このような例に上里町の丹生神社の算額があります。

(「やまぶき」6号に既報)。珍しいことではなかったのかも知れません。



文殊寺に奉納した算額の控の写し (野口泰助氏)

茂木惣平美雅は御正村(後の江南村)極春の人で、昭和十三年時八十四歳だったといえますから、安政元年頃の生まれということになります。群馬県間々田の斉藤四郎右衛門から数学を学んだといえます『埼玉県数学者人名小辞典』。斉藤四郎右衛門はどのような人物か不明です。

最後に、文献(1)の吉野米三郎の記述の中に次のような記述があります。

「明治八年二十三歳、大里郡野原文殊寺に天元の算額を奉納した。図を書き彩色を施したもので、円のなかへ円を容れたり、色々と込入って居た。米三郎は常に言つて居たが、文殊寺には算者の額が幾らもあつた。自己の額の傍には他算額があつて、誤りが書いてある。知らずに上げたのであつたらう。算者は六芸の一に通ずるもので、帯刀をも許されたから、己は百姓よりも算者を以て身を立てる事を志し、他国へ修行巡遊し、上州から野州藤岡、三夜様までも題を出しては、先方で答えが出来なければ、教えもして、其家へ泊り、三四日も逗留することもあつた」。

若い頃の吉野米三郎の思いが伝わって来るような文章ですが、それとともに文殊寺にはここに述べた以外の算額がまだあつたこともわかります。その算額は幻となつてしまつたようです。

参考文献

(1) 三上義夫「武蔵比企郡の諸算者」『埼玉史談』

1940年9月、10月

秩父郡横瀬町の大越数道軒

大越数道軒(？)明治二十六年(一八九三)は秩父郡横瀬町の人で、俗名を大越芳太郎正義といいます。明治初年の人で、算術を学び、附近の幼児のむし歯の痛みを算盤によつて止めたと言ひ伝えがあるほど算術に精通したといわれます(参考文献)。伝系などを含めた詳細は不明です。むし歯云々の話は、東秩父村の豊田喜太郎の逸話(「やまぶき」7号、十露盤で倉の錠を開けたとか、馬上の人をはじき落とした)にも通じることで、天元術などを扱つたことがこのような言ひ伝えや逸話を生むことになつたと思われまふ。

横瀬町横瀬

にある墓は、「数道軒大算芳學居士」とあり、台石には「算術」の文字とともに



百名以上の門人の氏名が刻まれていて、門人の育成に努力し慕われたことがわかります。墓の左側面に刻まれている歌は次のようなもので、辞世の歌であろうと思われまふ。

楽しきは老木に花の こころせり

数の梢に実をや結びて



(台石正面上)



秩父の和算家には横瀬の加藤兼安(一七八六〜一八五七)、上田野の笠原正一(？〜？)、加藤の門人)、吉田村の山口左平(一八二九〜九七)、それに大越数道軒を知るに止まります。資料(史料)は共に少ないですが、数道軒については特に少なく、ここに記した以外は不明ですが、墓に刻された文字を知り得たことはそれでも大きな喜びです。台石に刻された門人名も記します。

【謝辞】お墓の拓本取りをお許し頂いた大越輝夫様に深謝致します。また、和歌を解読して頂いた平田純子様にお礼申し上げます。

3 【参考文献】『秩父 武甲山総合調査報告書』別編 横瀬町地誌(昭和62年3月25日発行) p.56

- (台石向かって左上)
- 門弟
  - 山田 大島濱太郎
  - 大ノ原 高橋勇太郎
  - 大口ヤ 柿塚鶴吉
  - ヨコゼ 齋藤鷲太郎
  - 全 田代良助
  - 全 浅見亀吉
  - 全 齋藤泰吉
  - 全 阪本久作
  - 全 大場傳造
  - 全 富田西松
  - 全 町田小太郎
  - 全 本橋九市
  - 全 荒船濱太郎
  - 山田 宮下惣造
  - ヨコゼ 寫田茂十郎
  - 山田 若林倉太郎
  - 上タノ 堀口卯十郎
  - (向かって右上)
  - 全 加藤平吉

- 坂本 田中藤作
- 当村 大島寅次郎
- 全 関根□□
- 全 阪本□□
- 全 阪本半□□
- 全 黒沼高次郎
- 大ノ原 原島公吉
- 山田 大島福泰
- ヨコゼ 柳 多作
- 全 齋藤利助
- 山田 新田幸作
- 全 佐藤石平
- 山田 齋藤茂作
- ヨコゼ 小泉彌市
- 坂本 鈴木源作
- 根岸利一
- (背面上)
- 全 原島伊助
- 皆ノ 関口鉄五郎
- ヨコゼ 富田源次郎
- 全 本橋作次郎
- 全 小泉元次
- 全 大野倉吉
- クロヤ 町田儀作
- 山田 坂本喜次郎
- 全 坂本□吉
- 全 吉田□造
- ヨコゼ 町田寅吉
- 全 志村熊太郎
- 全 小泉市之丞
- 全 町田七十吉
- 伊古田 堀口艶造
- 上田ノ 加藤清三郎
- 山田 渋谷吉次郎

- 全 青木宅治
- ヨコゼ 町田勘十郎
- (正面上)
- 門人□世話人
- 山田 内田鶴吉
- 全 浅見嘉之助
- 全 中島周太郎
- 全 坂本金兵衛
- 全 若林嘉作
- 全 加藤為造
- 全 武島喜内
- 全 武島伊之吉
- 大宮 岩崎佐市
- 全 荒船桂造
- 全 若林熊太郎
- 全 若林幸太郎
- 全 千鳥房吉
- 全 齋藤松次郎
- 山田 大島米三郎
- 全 富田卯太郎
- 全 町田勘造
- (向かって左下)
- 全 小久保善作
- 全 若林和十郎
- 全 阪本平吉
- 全 小泉忠次郎
- 全 柳 儀作
- 全 浅見駒太郎
- 全 富田神次郎
- 全 大島増吉
- 山田 阪本新三郎
- 全 阪本鷲藏

- 全 阪本龜太郎
- 全 齋藤萬次
- 全 山田 白井敏次郎
- 全 阿保字重
- 全 橋本卯太郎
- 全 北堀桂造
- (向かって右下)
- 全 小泉鶴作
- 全 小峯元吉
- 全 小峯森造
- 全 町田儀助
- 全 齋藤輝之助
- 全 本橋森造
- 全 齋藤波八
- 發起人
- 全 大越浩齋
- 全 齋藤愛助
- 全 小峯佐吉
- 全 早田常吉
- 名附子
- (背面下)
- 全 小林トラ
- 全 □越林藏
- 全 木橋力□
- 全 ヒデ
- 全 齋藤亀吉
- 全 □□□
- 全 濱次郎
- 全 加藤肇吉
- 全 町田テル
- 全 廣吉
- 全 大場才一

【野口文庫の紹介】

「古今算鑑」

『古今算鑑』は内田恭(五観) (文化二年(明治十五年))が門人の掲額した算額問題を集めたものです。乾・坤の二巻。寸法は15.8×22.8 cm。乾の巻は(二題言)・(三(序)・六(叙)・二十一(本文丁、坤の巻は二十九(本文)・(二跋)・九(広告丁。天保三年(一八三二)の刊。跋は日下誠。



内容は積分を使って面積や体積、それに線長など求める求積問題で、どの問題も難問です。

下表に本書の掲額場所・問題数などの一覧を示します。

天保三年にこの書物を出版したとき内田は二十七歳ですが、この書物の先頭にある文政三年の武州大宮の氷川神社に七問の算額を奉額したのは十五歳の時ということになります。そしてその内容は楕円の一部の周長を求めるものなど高度なものです。被積分関数を級数

展開して項別積分を行うようなことを行っています。

内田は当代一流の数学者です。十一歳で日下誠の門に入り、十七歳で瑪得瑪第加(マテマチカ[Mathematica])塾を開き、十八歳で関流宗統六伝を授けられています(宗統は印可までの五免許を受けた人か?)。可なり早熟だったように思えます。天保二年二十六歳のとき蘭学を学ぶ為に高野長英に入門しています。天保十年の蛮社の獄で長英が入牢し、後に脱

	場所	題数	時期	掲額者
乾之巻	武州一之宮氷川明神社	7	文政3年正月	内田恭
		3	文政5年正月	堀猪平
	東都麻布氷川明神社	3	文政5年正月	堀猪平
	相州一之宮寒川明神社	3	文政5年5月	入澤新太郎
	武州池上祖師堂	3	文政5年10月	木村亀五郎
	豊後一之宮西寒多神社	3	文政6年9月	寺本與八郎
	東都麹町平川天満宮	3	文政7年2月	深澤與市
	相州大山不動堂	3	文政7年5月	村田長次郎
	相州鎌倉鶴岡八幡宮	3	文政9年8月	宮井総兵衛
	武州大師河原大師堂	3	文政10年3月	座間彦兵衛
坤之巻	讚州象頭山金毘羅社	3	文政10年10月	松山寿平
	東都芝愛宕山	6	文政11年正月	小田切清十郎他
		7	文政13年9月	武田量左衛門
	長州萩宮市天満宮	3	文政11年9月	清水清十郎
	長州一之宮住吉之神社	3	文政11年9月	山本源兵衛
	越後古志郡蔵王権現社	3	文政12年3月	米持久米七
	羽州山形島海月山両所之宮	3	文政12年9月	荒井政六
	東都四谷潮踏観世首堂	5	文政12年11月	佐野忠七
	加州一之宮白山比咩神社	3	文政13年正月	狩野榮太郎
	能州一之宮氣多神社	3	文政13年正月	廣田八郎右衛門
	武州目黒不動堂	3	文政13年9月	野村徳造
	羽州置賜郡永井文殊堂	4	文政13年9月	高橋藤助
	東都四谷天王社	5	文政13年11月	堀仲猪撰
	計12面	85		

獄し逃亡すると、内田は背後で逃亡生活を助ける動きをするようになりま。このことについては「蛮社の獄の長英と和算家」という題でいつかはまとめたと思います。

編集後記

和算家の石碑や墓碑にある文字を調べることは、少ない資料を補う意味で大事なことと思っています。写真に撮っても風化したりして読めないことも多いですが、拓本に取ると以外と文字が浮かび上がります。素人作業で矢嶋久五郎と大越数道軒の墓の拓本を取らしていただきましたが、文字の出現に感激しました。残念なのは、異体字やくずし字のため読めない場合が多いことですが、知っている方に教えていただきながらめげずに…。

